

12月19日の第2回オンライン高校生模擬裁判選手権に向けて、参加校の高校生を対象に事前学習の講義をZOOMで行います。この講義は一般のかたがたにも広く開放致します。講義の視聴をご希望のかたは、タイトルに講義視聴希望とお書きの上、視聴を希望される講師名を明記して、次のアドレスまでお申込み下さい。後日IDとパスワードをお知らせします。視聴は無料です。

fudano@ped.ous.ac.jp (岡山理科大学教育学部 札埜研究室)

*本研究は、JSPS 科研費 JP20K02809 (基盤研究 (C) (一般)「国語科の視点を取り入れた新科目『公共』で活用可能な模擬裁判メソッドの研究開発)の助成を受けています。

2021年第2回オンライン高校生模擬裁判選手権 事前学習講義日程&講師プロフィール

日時	内容	講師	所属
10/10日 14~16:30	模擬裁判とは? 模擬裁判の 作り方講座 (I)	伊東隆一氏	弁護士 (京都弁護士 会)
10/23 土 14~16	冤罪被害者が語る「法は言 葉です」	山田悦子氏	冤罪被害者 (甲山事 件被告人)
10/30 土 15~17	歴史・地理の視点から教材 を読み解く。	高正樹氏	高校教員 (京都教育 大学附属高校教諭)
10/31 日 14~16	文学の視点から教材を語 る。	奥野久美子氏	大学教員 (大阪市立 大学文学部准教授)
11/6 土 14~16	事件と向き合う刑事裁判官の 心構え	木谷明氏	元裁判官・弁護士 (第 二東京弁護士会)
11/7 日 14~16	無罪判決 20 件以上の最強弁 護士が語る~死刑制度も視 野に入れながら	後藤貞人氏	刑事辩护人 (大阪弁 護士会)
11/11 木 16~18	検察官の視点から教材を読 み解く	若佐一朗氏	元検察官・弁護士 (大 阪弁護士会)
11/20 土 14~16:30	模擬裁判とは? 模擬裁判の 作り方講座 (II)	伊東隆一氏	弁護士 (京都弁護士 会)
11/21 日 13~15	法廷プレゼンテーション入 門	遠山大輔氏	弁護士 (京都弁護士 会)
11/27 土 14-16	犯罪学の視点から教材を読 み解く~人はなぜ人を殺す のか	石塚伸一氏	大学教員 (龍谷大学 犯罪学研究センター 所長)
12/4 土 15-17	心理学の視点から証言の信 用性を分析する	福島由衣氏	大学教員 (日本大学 文理学部人文科学研 究所)

講師プロフィール〈敬称略・講義順〉

伊東隆一（弁護士）

1979年東京都生まれ。白陵高校、一橋大学法学部、立命館大学法科大学院を経て司法試験に合格し、弁護士となる。授業者（札幌）とは2013年より国語科における法教育について協同研究に取り組む。2013年から2017年にかけて京都教育大学附属高校（授業者の前任校）の支援弁護士として、同校模擬裁判チームを日本弁護士連合会主催の高校生模擬裁判選手権において、3回の優勝、2回の準優勝に導く。現在京都弁護士会広報委員会委員長、法教育委員会委員。奥村・岡田総合法律事務所所属。

山田悦子（冤罪被害者）

1951年富山県生まれ。1974年3月兵庫県西宮市の知的障害者施設・甲山学園で園児二人が死亡したいわゆる「甲山事件」の冤罪被害者。一人は事故死とされたがもう一人の園児については殺害されたとして当時、保母として当直をしていたところ殺人容疑で逮捕された。事件発生から25年を経過し、99年9月に大阪高裁で三度目の無罪判決で漸く無罪が確定した。起訴から21年の長い歳月を費やした。この事件では警察の強引な取調べ、犯罪報道の在り方などが問題となった。共著に『甲山事件 えん罪のつくられ方』（現代人文社）ほか。

高 正樹氏（高校教員・歴史学）

福岡県に生まれる。京都府立大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、京都教育大学附属高等学校地理歴史科教諭。

奥野久美子氏（大学教員・近代国文学）

1976年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。別府大学、京都教育大学を経て2012年より大阪市立大学大学院文学研究科（国語国文学専修）准教授。専門は、芥川龍之介を中心とする大正期文学研究、および近代講談本研究。中学生時代に芥川作品に出会い、高校生の時、芥川龍之介生誕百年記念展覧会を見て、芥川研究を志した。著書に『芥川作品の方法－紫檀の机から－』（和泉書院 2009年）。最新の論文は「芥川龍之介「義仲論」－秋里籬島「源平盛衰記図会」と「絵本源平盛衰記」－」（彭春陽・仁平道明編『芥川龍之介研究－台湾から世界へ－』国立台湾大学出版中心 2021年03月 所収）

木谷 明氏（元裁判官）

現弁護士（元裁判官）。裁判官の経歴として、昭和38年任官、東京地裁判事補、最高裁判事局付、札幌高裁判事職務代行、東京地裁判事、名古屋地裁判事、同高裁職務代行、最高裁調査官、大阪高裁判事、浦和地裁判事部総括、東京高裁判事、東京家裁判事・少年部所長代行、水戸家裁所長、同地裁所長、東京高裁第5特別部総括を歴任し依願退官。2004年から12年まで8年間、法政大学法科大学院教授。第二東京弁護士会所属。30件以上の無罪判決を出し確定させた伝説の裁判官である。『イチケイのカラス』のモデルの一人。NHK『こころの時代～宗教・人生～』（2021年9月21日放送）において「それでも、信じる 負け続ける元裁判官」というタイトルで、裁判官と被告人という立場の違いはあっても、一人の人間として被告人に向きあい、被告人の話を徹底して聴き続ける姿勢が紹介された。

後藤貞人（刑事弁護士）

日本を代表する刑事専門弁護士。これまでに勝ち取った無罪判決は20件以上。日弁連裁判員制度実施本部副本部長など多数の役職を務め、刑事弁護関連を中心に著作も多数。2010年4月、21年ぶりに最高裁が事実誤認ありとして1審の無期懲役と2審の死刑判決を破棄し、大阪地裁に審理を差し戻した大阪市母子殺害放火事件被告の主任弁護人を務める。「後藤でダメならあきらめろ」と言われるほどで、無罪を主張する被疑者や被告にとって駆け込み寺のような存在とされる。裁判員裁判が始まる前から、法廷で書面を見ずに弁論を展開する“離れ業”が注目され、法廷プレゼンテーションにおいても日本で第一級の弁護士である。「世界中を敵に回して、たった一人になっても『極悪人』のために戦うのが弁護士の務め」と言い切る。死刑廃止論者としても名高い。

若佐一朗（元検察官）

1993年慶応義塾高校卒業。1995年司法試験合格。1997年慶応義塾大学法学部法律学科卒業。1999年最高裁判所司法修習生（京都地方裁判所配属）修了。検事任官。2011年谷口総合法律事務所入所。2013年龍谷大学法学部非常勤講師任命。2016年ベリーベスト法律事務所（大阪オフィス）入所。検察官として12年間の勤務実績。中国企業と日本企業間の契約終了を巡る損害賠償請求交渉において、中国企業側代理人として10億円以上の経済的利益を獲得、詐欺罪の成立を否定する判決（予備的訴因の背任罪を認定）を獲得、逮捕監禁致死事件（裁判員裁判）の弁護人として懲役4年の求刑に対し懲役2年の判決を獲得。

遠山大輔（弁護士）

1974年生まれ。2002年弁護士登録。戸田・遠山法律事務所所属。2003年4月～2008年3月立命館大学非常勤講師。2007年10月～2014年3月龍谷大学法科大学院非常勤講師。2014年4月～2017年3月龍谷大学法科大学院教授。2017年2月戸田・遠山法律事務所設立。共著「入門法廷戦略—戦略的法廷プレゼンテーションの理論と技術」（2009年現代人文社）。2008年に起きた舞鶴高1女子殺害事件で無罪判決獲得。2019年に起きた京都アニメーション放火殺人事件の青葉真司被告人の国選弁護人を務めている。

石塚伸一（大学教員・犯罪学、刑事訴訟法）

東京都生まれ。中央大学大学院法学研究科博士後期課程退学（法学修士）。九州大学法務研究科より博士（法学）の学位授与。北九州市立大学法学部教授、龍谷大学法学部教授を経て、現在、同大学犯罪学研究センター長。弁護士。和歌山毒カレー事件の林真須美被告の弁護団メンバー。著書に『刑事政策のパラダイム転換』（1996 現代人文社）編著に『弁護士業務と刑事責任』（2010 日本評論社）など。

〈コーディネーター〉

福島由衣（大学教員・心理学）

2017年日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了。博士（心理学）。専門は認知心理学・司法心理学。目撃者を聴取する警察官や検察官などの聴取者が目撃者の識別と供述に与える影響に興味がある。日本大学文理学部人文科学研究所研究員・龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員。

【コーディネーター】

札埜和男（大学教員・国語科教育、法教育）

大阪府生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。博士（文学・大阪大学）。現場教員生活 31 年（中学校 2 年・高校 29 年）。うち担任 20 回。最初の 3 年間は社会科教員（国語・社会・英語の中高免許状所有）。2017 年 4 月岡山理科大学教育学部准教授として赴任。日本弁護士連合会主催の模擬裁判甲子園では、京都教育大学附属高校を過去 11 大会中 8 回優勝 3 回準優勝に導く。龍谷大学犯罪学研究センター客員研究員兼務。「模擬裁判師」として模擬裁判普及のため全国各地へ指導に赴く。三度の飯より模擬裁判を好み、模擬裁判指導歴は数百回に及ぶ。